

平成30年度【地元論】のご紹介

～ “地元” で働くこと ～

地元でご活躍されている看護師・助産師・保健師の方より、これまでの経験や現在の勤務内容をご紹介いただき、“看護職の多様な働き方”や“地元で働くこと”について、ご講義いただきました。



看護師
須貝ゆきの 様
(至誠堂総合病院)



助産師
金塚尚美 様
(母子保健
コーディネーター)

《学生の学びや感想・意見》

・須貝さんは、自分の目指す看護師像がはっきりしていて、目標をもって看護をしていた。目標をもって看護をすることで、よりよい看護を行うことにも繋がるし大切だと改めて感じた。金塚さんからは、地元で働くメリット、地元外で働くメリットを両方聞いて、地元外で働きその経験を地元で活かすというのもいいなと感じた。

・地元の病院に就職した理由を聞き、住み慣れた場所で療養を望む患者さんがいて、それを病院で入院中にアプローチして支援する看護師、地域の場で在宅での療養を支援する看護師と、看護師の中にも様々な患者さんとの関わり方・地域との関わり方があるのだと思った。

・お二人のお話を聞いて、看護は幅広く様々な働き方があると感じた。今後、経験を積んだうえで、将来のあり方を考えていきたい。

・実習ではなりたい看護師像など考えていなかったが、今日のお話を聞き、なりたい看護師像などを考えながら実習に取り組みたいと思った。将来、地元である山形で働こうと思っているので、今のうちから地元の特徴を調べるなどしておきたいと思う。

・地元を離れて初めて周りの人に支えられている有難さ、地元の良さを感じました。外に出て知ることができた有難みを地元に戻っていかしたいと思いました。また、どんな看護師になりたいかは未定ですが、どこで働くかということも視野に入れて考えていきたいです。「なりたい看護師」という目標が決まればどういったケアを患者さんにするのかも変わってくると感じました。

・今まであまり自分がどのような看護師になりたいかということを考えずにただ看護師になろうと思っていただけなので、これから色々な話を聞いたり現場を見たりして、自分が「こうになりたい」と思える将来像を見つけ、自分に合った職場で働きたいと思いました。

・なぜ地元で働いたのか、地元で働くメリット、他で働くメリットを実際に経験した先輩から教えてもらい、とてもためになりました。私は、何になりたくて、どのようなところで働きたいかまだ決まってはいいないけど、このようなお話を聞ける機会があると、将来について考えることができるのでとても良かった。

- ゆっくり自分の看護師像を見つけることが大切だと感じた。自分の看護師像を見つけることによって将来の就職先を探す材料になるとわかった。
- 県外の病院に出てみることで山形では学ぶことができないものを得ることが出来るということを知った。他にも、違う文化・特性を持つ人との出会い交流から、違う視点で物事をみれるというメリットがあることを学んだ。
- お二人のお話を聞いて、将来の選択を考えていく視野が広がったように思う。まだ一年生だからではなく、少しずつでもいいから自分の将来像について考えていきたい。
- 自分のなりたい看護師像をもつことで、それに合った病院で自分の目指す看護をすることができるとわかった。そのため、大学生活の中で自分がどうなりたいか、患者に対してどう接することができる看護師になりたいかを確立し、インターンシップなどを通して、将来働く病院を決めたいと思う。
- 金塚さんの話は、地元以外での経験を地元でも活かしていて、自分の中にそういう選択肢があってもいいなと思えるよい機会だった。地元のメリットしか考えたことがなかったが、地元以外のメリットも知ることができて視野が広がった。母子保健コーディネーターという仕事も知り、助産師として働いたあとも、そういう働き方があるのだとわかった。
- 今日の授業で、地元で働くこと、地元を出て他の場所で働くことの良さをしることができて良かったです。仕事をしていく上で、出会いを大切にしていくこと、経験はどんなことでも無駄にならないことを教えてもらいました。自分なりの看護師像をこれからの生活や実習などの経験から学んで作っていき、どこに就職するかを考えていきたいと思いました。

保健師

須藤 百子 様
(朝日町 健康福祉課)



《学生の学びや感想・意見》

- 個人の健康問題だけでなく、地域の健康問題まで考えるというのがすごいと思った。乳児訪問で行っても、祖父や祖母の相談もされるというのが驚いた。町に出ると自覚症状がない人に対して予防指導をするのが難しいと感じているという大変なことも実際に働いている方の生の声を聞くことができて非常に良い経験となった。私は保健師になるか看護師になるか迷っていて、看護師の方の話聞く機会は多くあるが、保健師の方の話聞く機会はあまりないので、貴重な時間だった。
- 保健師は町民一人一人と密に関わることができるので、利用する町民にとって、とても頼れる存在だと思った。個人の健康問題だけでなく、地域の問題にも注目し、対策を考えることで、地域全体で町の健康を良くするという意識が伝わった。高齢者が多くても孤立しないように健康教室を行ったりなど、住民に優しい町だと思った。訪問看護師なども連携して、必要なときにサポートすることが大変だと聞いたが、大切な事だと感じた。予防意識を高めるのは難しそうだけど、このような環境作りを続ける事で、町民も意識が出来てくるのだろうなと思った。保健師の業務内容を詳しく知る事ができる機会があってよかった。高齢者の暮らしのサポートにも興味があるので、保健師も将来の選択肢に入れようと思った。

・保健師の仕事に関して、対象の方に何でもやってあげるだけでなく、その人の力をアセスメントして自立サポートをしていくことが大事だとわかり、看護師だけではなく保健師にも通ずることだと感じた。また、保健師は、対象の方に説明する機会も多く、自覚症状がない人に予防の理解が難しいということから、工夫が必要なんだと感じた。今回お話を聞いて、退院支援にも興味をもった。保健師は長期にわたって地域の方々と関っていくということや、全年代の方が対象となることから、多くの知識の定着が必要だと感じた。

・いろいろな知識が必要で難しそうだなと思った。しかし、小さな町ならではかもしれないが、多くの人と関ることもでき、住民の方との距離が近く、深くかかわることができることが魅力的だと感じた。

・保健師という職業の業務内容をいまいちよくわかっていなかったけれど、看護師のように既に病を患った人を中心にケアを提供するだけでなく、その地域に住む全ての人々に対して健康を守るのだとわかった。将来の職業選択の一つとして自分でも調べてみたい。

・保健師の業務についての知識があまりなく、わからないことだらけだったが、今日の講義で地域に根ざした保健師の大切さがわかった。震災が起きたときの対応や、健康体操などといった、地域の人たちを思って活動しているのがとても魅力的に感じた。これからの学習で、保健師にもしっかり目を向けて勉強していきたい。

・保健師は、個人の健康問題から地域の健康問題を知ることが大切。患者さんとの関わる時間も変わってくることを知れた。高齢者の方々は、病院から完全に治っていない状態で帰ってきたとき、保健師だけでなく、他の職種との連携で対処すると聞いて、チーム医療は病院だけで行われていないということを改めて実感できた。また、自分は看護師か保健師か迷っていて、いい話を聞いた。さらに、自分の地元を知るきっかけにもなると思った。

・今の時点で私はまだ助産師と保健師で迷っています。保健師についてまだ知らないことが沢山ありますが、病院とは違って、地域の方と長く関ることができるのは魅力だと思います。自分の担当する母性だけではなく、その悩みを聞き、家族全員に頼りにされるのはいいことだなあと思います。これから進路を選択していく中で、自分の働きたい地元ではどんな医療がどんな体制であるのかをよく知り、未来像を考えながら決めていきたいです。

・私は看護師という職業しか視野に入れてなかったけれど、地域の人と病院よりも近い距離で接することができる保健師という職業も視野にいれてみようと思いました。また、地元で働くこともいいなと思ったので、将来どこで働くかも考えておこうと思った。

・個人の健康問題にとどまらず、そこから地域の健康問題に触れていき、また家庭訪問を行うなど、地域に密着した体制が保健師ならではのと感じた。家庭訪問をすることによって、より身近な環境を知ることができ、病院では気付かない課題にも気付くことができるため、とても大切だと思った。また、地域の方から電話で相談してきてくれたりと、人が少ない町だからこそ信頼関係が築けているのだと感じた。私も地域で働きたいという気持ちがあるため、保健師として働くことも視野にいれたいと思った。

